



❖ トピックス

・日本化学会第 97 春季年会特別企画“Coordination Asymmetry: Science of Asymmetric Structures and Functions”開催報告

2017年3月19日(日)の13時30分～16時30分に、慶応大学日吉キャンパスにて、シンポジウム“Coordination Asymmetry: Science of Asymmetric Structures and Functions”が開催された。本シンポジウムは日本化学会第 97 春季年会の特別企画として催され、学会最終日の午後にも関わらず、およそ 80 名を超える参加者が集まり盛況であった。

領域代表の塩谷光彦教授(A01 班)による挨拶・趣旨説明の後、各分野の日本人研究者 5 名、外国人研究者 1 名による講演があった。

藤田 誠 (東大院工)

“Absolute structure determination by the crystalline sponge method: applications to asymmetric synthesis and natural product chemistry”

林 高史 (阪大院工)

“Metalloprotein assembly toward photodevice construction”

岡本 裕巳 (分子研)

“Local optical activity of nanomaterials”

大越 慎一 (東大院理)

“Development of asymmetric magnetic coordination compounds”

中嶋 琢也 (奈良先端大物質)

“Chirality in semiconductor nanocrystal system”

Eric Meggers (Phillip Univ, Marburg)

“Asymmetric photoredox catalysis with chiral-at-metal complexes”

最初は藤田誠教授(東大院工)による講演で、結晶スポンジ法による絶対配置の決定について、不斉合成研究や天然物化学への応用など最近の成果をまじえながらお話いただいた。林高史教授(阪大院工)は、タンパク質内部の非対称空間への金属錯体の導入による、様々な人工金属酵素金属タンパク質の創製について講演された。続く 3 件の講演はキラル物性に関するもので、岡本裕巳教授(分子研)からはナノ物質の光学活性に関するトピックを、大越慎一教授(東大院理)には配位化合物によるアシンメトリック磁性の発現についてご講演いただいた。A04 班班員の中嶋琢也准教授(奈良先端大)には、ナノ粒子のキラリティーの発現とキラル光学特性について最近の成果を発表していただいた。最後に、本領域の International Advisory Board のメンバーでもある Prof. Eric Meggers (ドイツ・Philipps-Universität Marburg)による講演があった。金属中心がキラリティーを有する Chiral-at-Metal の研究についてお話いただき、特に多様な触媒反応への応用も示された。Chiral-at-Metal の化学は、本領域が目標とする非対称配位圏設計の最たるものであり、今後の領域研究に参考になる講演であった。最後に、三井化学の川島信之様より講評をいただき、シンポジウムは閉会となった。